

水稲における葉いもちの発生に注意！

- ・ 県南部で本田における葉いもちの初発が確認されました。
- ・ 早期発見に努め、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除してください。

1 発生現況

- (1) 7月上旬の巡回調査の結果、県南部の2地点で本田における葉いもちの初発が確認された。また、一部で本田内の残苗で葉いもちの発生が確認された。
- (2) 7月12日現在、BLASTAMによる感染好適条件の推定では、県内の複数地点で好適条件及び準好適条件が出現している(表1)。



写真 確認された葉いもち

表1 アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和4年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/28	?	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-
6/29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/30	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/2	-	?	-	?	?	?	?	-	?	?	?	?	?	-	-	-	?	?
7/3	-	?	-	-	?	?	?	-	?	?	?	?	?	-	-	-	?	?
7/4	-	-	-	-	?	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	△	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-
7/6	△	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	○	○	●	-	○
7/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7/9	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	●	-	△	●
7/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15~25℃、前5日間の平均気温20~25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
-	好適条件なし	
?	判定不能	

2 防除のポイント

- (1) ほ場に残された補植用苗は速やかに処分する。
- (2) 県内で広く葉いもちが確認される時期は平年で7月第3半旬(7/11～7/15)であることから、ほ場をよく見回り、発病が見られた場合は速やかに茎葉散布剤で防除する(表2)。
- (3) 7月中旬以降は予防粒剤(箱施用剤、水面施用剤)の効果が低下し始めるとともに、追肥で葉色が濃くなり、葉いもちが感染しやすい環境となるので特に注意する。
- (4) 上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になる。穂いもち予防のため水面施用剤を施用する場合は、使用時期を失しないように注意する(表3)。ただし、葉いもちの発生が確認された場合は水面施用剤施用前に茎葉散布剤を散布する。
- (5) 向こう1週間の天気予報(仙台管区气象台)では、曇りや雨の予報が続いているため、BLASTAMによる最新の葉いもちの感染好適条件の出現状況を参考とする。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>
- (6) 薬剤については、『令和4年度宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

表2 葉いもち対象の主な茎葉散布剤(『令和4年度宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』より)

薬剤名	使用時期	使用量・希釈倍数・散布液量	使用回数	FRACコード (有効成分)	備考
トライフロアブル	収穫14日前まで	1,000倍、60～150L/10a 無人航空機 8倍、0.8L/10a	2回以内	U16(テブフロキン)	
ノンプラス粉剤DL	収穫7日前まで	3～4kg/10a	2回以内	U14(フェリムゾン)、 16.1(トリシクラゾール)	
ノンプラスフロアブル	収穫7日前まで	1,000倍、60～150L/10a 無人ヘリ 8倍、0.8L/10a			
ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	3～4kg/10a	2回以内	U14(フェリムゾン)、 16.1(フサライド)	
ブラシフロアブル	収穫7日前まで	1,000倍、60～150L/10a			
ブラシンゾル	収穫7日前まで	無人ヘリ 8倍、0.8L/10a			
ブラシンバリダ粉剤DL	収穫14日前まで	3～4kg/10a		U18(バリダマイシン)、 U14(フェリムゾン)、 16.1(フサライド)	紋枯病との同時 防除が可能
ビームゾル	収穫7日前まで	1,000倍 無人ヘリ 6～8倍、0.8L/10a	3回以内	16.1(トリシクラゾール)	
ビーム粉剤DL	収穫7日前まで	3～4kg/10a			
フジワン乳剤	収穫14日前まで	1,000倍、60～150L/10a 無人航空機 8倍、0.8L/10a	2回以内	6(イソプロチオラン)	
フジワン粉剤DL	収穫14日前まで	3～4kg/10a			

表3 穂いもち対象の主な水面施用剤(『令和4年度宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』より)

薬剤名	使用時期	使用量・希釈倍数・散布液量	使用回数	FRACコード (有効成分)	備考
コラトップ1キロ粒剤12	穂いもちに対しては出穂30～5日前まで	1～1.5kg/10a 無人航空機1kg/10a	2回以内	16.1(ピロキロン)	
コラトップ粒剤5	穂いもちに対しては出穂30～5日前まで	3～4kg/10a			
コラトップジャンボP	穂いもちに対しては出穂30～5日前まで	小包装(パック)10～13個 (500～650g)/10a			
コラトップリンパー粒剤	出穂30～5日前まで	3～4kg/10a		16.1(ピロキロン)、7(フラメトビル)	紋枯病との同時 防除が可能
ゴウケツバック	出穂5日前まで ただし、収穫30日前まで	小包装(パック)10個(450g)/10a	1回	16.3(トルプロカルブ)	
ゴウケツ粒剤	出穂5日前まで ただし、収穫30日前まで	3～4kg/10a(湛水散布)			
フジワンバック	穂いもちに対しては出穂10～30日前 ただし、収穫14日前まで	小包装(パック)10～15個 (750～1125g)/10a	2回以内	6(イソプロチオラン)	
フジワン粒剤	穂いもちに対しては出穂10～30日前 ただし、収穫30日前まで	3～5kg/10a(湛水散布)			

※令和4年7月6日現在の登録内容(FRACコードは、殺菌剤の作用機構分類を表す)

※使用回数は有効成分毎の総回数のため、他の薬剤で同一の有効成分を含む場合があるので注意する

ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。特に、水田用除草剤や水田で粒剤を使用する場合は、止水に関する注意事項を確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp



宮城県病害虫防除所 QRコード

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ✓ 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ✓ 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ✓ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ✓ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ✓ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ✓ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう

宮城県病害虫防除所から『メルマガ』配信開始！

【登録方法】

QRコードまたはURLからホームページの登録フォームへアクセスできます。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/mail-magazine.html>

※本メルマガに対する通信費は自己負担となります。

不明な点は、宮城県病害虫防除所(TEL:022-275-8982)まで、お問い合わせください。



宮城県病害虫防除所
メルマガ QRコード